

■ <追悼> 山本信行先生を偲んで

久米 秀樹 (H2 年卒)

元顧問の山本信行先生(S40 年卒)におかれましては、令和 2 年 6 月 14 日にご逝去されました。OB・OG 会員の皆様に謹んでお知らせすると共に、EWA CHOR 発展にご尽力いただいた先生に、改めて感謝の意を表します。

先生の追悼文の掲載を先輩の皆様にご相談したところ、先生の顧問時代を知る世代の執筆が適任とのことで、僭越ですが下名が先生との思い出を振り返らせていただきます。

私は、現役学生時代に部長を務めていたこともあり、先生には部活行事の度に、報告や手続きのために電気工学科の研究室にお伺いしていました。その際、先生はいつも「顧問は“来んもん”」とおっしゃっていたことを記憶しています。第 50 回定期演奏会記念誌の先生のご寄稿によると、この“名言”は、前任顧問の先生の言葉とのことですが、部活動の主体はあくまでも学生であり、学生の自律を側面からサポートするのが顧問の役割との先生のお考えでもあったように思います。それでも、先生は、1980 年(第 22 回定期演奏会)から、大学教員を退職された 2005 年(第 46 回定期演奏会)まで 25 年間の長きにわたり顧問を務めていただき、EWA CHOR の発展にご尽力いただくと共に、現役部員の活動をいつも温かく見守っていただきました。この間、定期演奏会には合計 21 回ご出席いただき、演奏会終了後のレセプションにおいては OB・OG の皆様と語り合うことを楽しみにされていました。EWA CHOR の OB でもあった先生には、OB・OG どうしや現役部員との絆を大切に思い、人一倍、EWA CHOR に対する強い愛情をお持ちであったように思います。

2008 年から 2009 年にかけての第 50 回定期演奏会記念事業の際には、先生は、記念事業の中心メンバーとして、また、記念誌の編集主幹として大変なご尽力をいただきました。その当時、「長く活動してきた歴史は、記念誌のようにきちんとまとめた形で記録として未来に残すことが大切なんだ。君も私たちの年齢になればわかるよ。」とおっしゃったことが強く印象に残っています。先生が記念誌の編集後記でも触れられていますが、50 年分の記録を収集・整理して 1 冊の記念誌としてまとめる作業は並大抵のことではなかったと思います。先生と当時編集員を務めてくださった先輩の皆様のおかげで、EWA CHOR の歴史を後世に残す立派な記念誌が刊行されました。そして、10 年後の第 60 回定期演奏会記念事業では、記念誌に込めた先生の想いを、OB・OG 会の公式ホームページの形で引き継ぐことができました。

先生からは 2 年ほど前に、ご病気であることを伺っておりましたが、昨年 2 月 9 日にホテルアウイーナ大阪で開かれた第 60 回定期演奏会記念パーティーには何とかご出席いただき、OB・OG 会として先生に感謝状をお贈りすることができました。感謝状贈呈のあとの先生のスピーチで「孫のような若者世代と私のような老人世代がこのように一所に会することは不思議と思いませんか?」といった趣旨のことをユーモアたっぷりにお話していただきました。60 年余りの EWA CHOR の活動を、世代を超えて先生が顧問として、また、OB として長年サポートしてこられたことを、先生ご自身が感慨深く思われてのお言葉であったように思います。

先生と私の自宅は近く、駅を挟んで反対側に位置している関係で、時々、駅でばったりお会いすることがありました。その都度、先生には優しく声をかけていただきましたが、もうお会いすることができないことをとても寂しく思います。先生の訃報に接したあと、先生の奥様にお悔やみとお礼のお手紙を差し上げたところ、ご丁寧なお返事をいただきました。その中で、奥様から OB・OG の皆様に、「故人に代わり厚くお礼を申し上げます」とのご伝言を預かりました

ので、この場を借りて、ご紹介させていただきます。先生には、天国から、私たち後輩の活動を今後も見守っていただけるものと思います。今年、コロナ禍で本当に大変な一年でしたが、私たちもしっかりと前を向いて歩みを進めなければと思います。先生には、本当にありがとうございました。



感謝状贈呈式での山本先生 (2019.2.9、於:ホテルアウイーナ大阪)

■ 現役部員活動報告

OB・OG 係 4 回生 正木 秀知

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、練習中も 3 密を避ける、歌う際マスク着用等の制約の中、主に後期から定期演奏会に向けて練習を始めました。歌のことに加えて感染対策のことを常に考えながらの練習となり、例年よりも大変な日々が続いていますが、1 歩ずつ本番に向けて進んでいると感じます。新入生は 12 月現在女声 2 人、男声 1 人が入部してくれました。ただ、感染対策の観点から一緒にご飯を食べることも出来ず、遊びに連れ出すことも出来ていないので筆者自身も含め、彼らとの交流はまだまだ始まったばかりです。これからが楽しみです。

さて、ここから第 62 回定期演奏会の各ステージについて簡単にですが触れたいと思います。今年度定期演奏会は第 1 ステージ(副指揮者ステージ)、第 2 ステージ(正指揮者ステージ)、第 3 ステージ(当間修一先生ステージ)の 3 ステージ構成です。第 1 ステージでは混声合唱曲集「光と風をつれて」を演奏します。副指揮者のデビュー戦です。初々しく、エネルギー溢れるステージをお楽しみください。第 2 ステージは Eric Whitacre アラカルトとなっております。全 4 曲、慣れない英語の曲を扱います。Whitacre 独特の音色を存分に聞いていただけるよう特訓中です。そして第 3 ステージでは無伴奏混声合唱のための「After」を演奏します。総人数が減り、パートによっては 1 人 1 div を歌い上げることになる箇所もちらほらある中、1 人 1 人懸命に、新型コロナウイルスによって変わりつつあるこの世界の「After」を思い浮かべながら歌っています。

そして、最後になりますが、OB・OG 会の方々を始め、毎年現役生を暖かく見守って下さる OB・OG の皆様方には誠に感謝しております。今年度は例年と異なり、チケット完全予約制となっております。少しお手数をお掛けしますが、第 62 回定期演奏会に足を運んで下さることを現役一同心よりお待ちしております。どうかよろしくお願ひ致します。

新型コロナウイルス感染症対策のため第 62 回定期演奏会はチケット完全予約制となっており、ご招待状は同封していません。チケットの予約申し込み方法については、4 ページ目の現役部員からのご案内をご覧ください。(久米)

■ 演奏音源がFMラジオで全国放送されました

第60回記念定期演奏会にてEWA CHORが委嘱初演した「超訳恋愛詩集I(作曲:信長貴富 作詩:菅原敏 原文:杜甫・在原業平)」の演奏音源(2.夜露のように消え失せる)が下記のラジオで全国放送されました。

- ◇放送局: NHK-FM(全国)
- ◇放送日時: 2020年10月25日(日)14:00~15:50
- ◇番組名: X(かける)クラシック
- ◇出演: 【MC】市川紗椰(モデル)、水野蒼生(指揮者)
- 【ゲスト】菅原敏(詩人)

同番組は、クラシックとそれ以外の様々なジャンルを掛け合わせて紹介するクラシック・バラエティ番組です。放送日には「文学×クラシック」がテーマとして取り上げられ、作詞の菅原敏さんがゲスト出演されました。演奏が流れた後に菅原さんからは「書いた言葉がこうして幾重にも重なって膨らみをもって戻ってくる」といった貴重な経験をして、人の声はすごいと思った。音源ではあるが、最初に聴いたときは鳥肌が立ち、すてきな曲と合唱にとっても感謝しています。」とコメントしていただきました。MCを担当された指揮者でクラシカルDJの水野さんにも「生で聴いたらきつと泣いちゃうだろうな」とEWA CHORの現役部員の演奏を絶賛していただきました。

放送日の3日前ほどに現役部員から放送がある旨、連絡をいただき、すぐに事務局が電子メールアドレスを把握している150名ほどのOB・OGの皆様へ放送のことを連絡しました。放送終了後には、OB・OGの皆様から「感動した」、「よかった」との感想を多く寄せていただき、ありがとうございました。

■ 「超訳恋愛詩集I」の楽譜が出版されました

第60回記念定期演奏会にてEWA CHORが委嘱初演した「超訳恋愛詩集I(作曲:信長貴富 作詩:菅原敏 原文:杜甫・在原業平)」の楽譜が2020年2月に出版されました。楽譜には、大阪府立大学混声合唱団EWA CHORの初演記録も掲載されています。OB・OG会のサポートにより委嘱初演した曲が出版されたのは「月天子」に続き2度目となります。EWA CHORが委嘱した曲が出版され、全国の合唱団に広く歌われることは、OB・OG会としても大変嬉しいことです。OB・OGの皆様にも、ご関係する合唱団などがありましたら、是非、ご紹介いただければ幸いです。



| | | | | | |
|-----|------|-----|------|-----|-------|
| H14 | 松本早紀 | H26 | 近藤 健 | H28 | 前田賢大 |
| H15 | 吉松幹人 | H26 | 岩崎裕徳 | H28 | 前田彩香 |
| H15 | 矢戸俊一 | H26 | 井上明彦 | H29 | 吉田享祐 |
| H16 | 上道明生 | H27 | 谷地勇哉 | H29 | 勝間康介 |
| H17 | 林亜里沙 | H27 | 天津惟央 | H29 | 高橋壽織 |
| H18 | 中西憲一 | H28 | 宮城夏樹 | H29 | 河野涼太 |
| H20 | 長山佳奈 | H28 | 小川浩実 | H29 | 西岡美旺 |
| H23 | 鷺見修助 | H28 | 松井琴音 | H31 | 岩本雄太郎 |
| H25 | 近藤大樹 | H28 | 阿蘇和輝 | H31 | 大内千尋 |
| H25 | 森脇智美 | | | | |

<ご寄稿>

文・画:江崎 健一郎 (S36年卒)



1月11日(土)午後5時半開演、たかいし市民文化会館アプラホール大ホールで開かれた第61回大阪府立大学混声合唱団EWA CHOR演奏会を楽しみにして出かけた。神戸から高石は結構遠い。2時間は見ておかないといけませんが、JR住吉、大阪METRO梅田、南海本線なんば経由と、3つの線を乗り継ぐ。タッチの差で開演に遅れ、第1ステージはホール外のロビーで聴く羽目になった。会場の様子をスケッチすることを恒例としている。幸いホールにあらかじめ用意されていたテレビ映像を見ながら描きはじめた。あと会場に入り、第2ステージから、第3ステージ、第4ステージと描き込み、事なきを得た。予め送られたEWA CHOR、OB・OG会報によれば、新たに女声6名、男声4名を加えて総勢45名で活動している。この日、会場入り口で配布されたパンフレットによれば、エヴァ・コールは、昨年60周年を迎えた。今回は61回目、新しいスタートを切る節目の演奏会である。「歌うことが大好きだ。歌と共に過ごし、真正面から歌と向き合ってきた。その締めとしての本日の演奏会をお楽しみください。」と書かれていた。

第1ステージは、佐藤賢太郎 作詞・作曲「憧れと共に」、第2ステージは、高田三郎 作詞・作曲「水のいのち」、第3ステージは、恒例となっているのだそうだが1回生による劇「Shall we sing」のあと、小休止を挟んで、一気に盛り上がり、第4ステージ、当間修一氏の指揮による千原英喜の「永訣の朝」で最高調に盛り上がった。聴き終わったあと心地よい清涼感が耳元に残った。アンコール曲として、清水雅彦 作詞、千原英喜 作曲「Greetings」を聴きお開きとなった。しばらくの間、会場の拍手が止まなかった。余談ながら、現在、大阪府立大学には昔でいう学部はない。エヴァ・コール部員、男声18名、女声27名、合計45名の所属先がパンフレットに出ていた。電気電子がトップで10名、内男声7名、自然科学が6名、内女声4名、緑地環境4名、環境システム4名、教育福祉4名などと続く。女声に獣医2名とあった。どんな獣医さんになれるのだろうかと思うと楽しみでならない。筆者が卒業時あった「経済」や「経営」の文字はメンバーの中にはなかった。時代の移り変わりを改めて実感した。筆者は、卒団のあと60年経過した。OB・OG会にも不義理している。当然であるが会場で言葉を交わす機会は無かった。青春真ただちの後輩の皆さんの元気溢れる声を楽しみ、かつ、大いなるエネルギーをいただくことが出来、ひたすら感謝である。彼ら彼女らが60年先を迎える時、どんな日本になっているのだろうか、などと思い巡しながら帰路についた。(了)

■ 第61回定期演奏会ご来場お礼

2020年1月11日(土)たかいし市民文化会館アプラホール大ホールにおいて第61回定期演奏会が開催されました。64名のOB・OGの皆様にご来場いただきました。ありがとうございました。

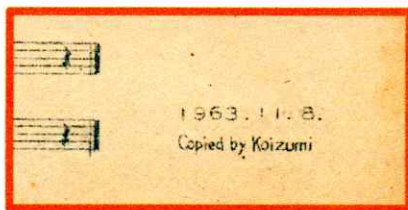
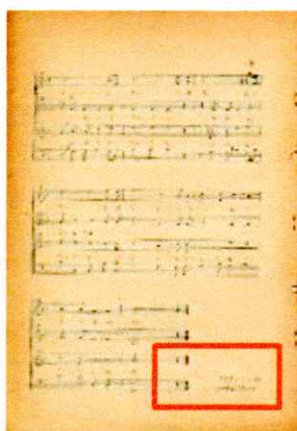
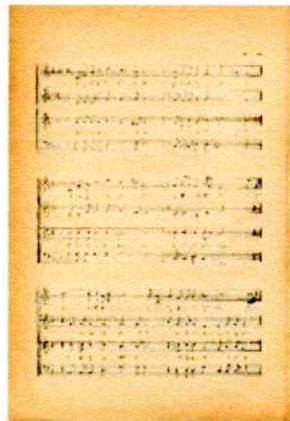
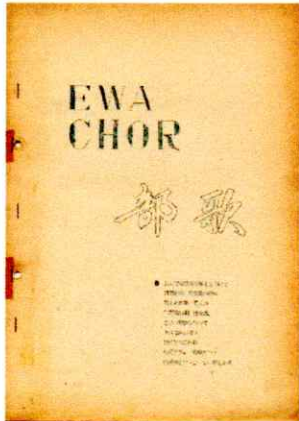
<第61回定期演奏会ご来場者ご芳名(敬称略)>

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| S32 | 越智 京 | S46 | 田中信子 | S55 | 伊藤智子 |
| S36 | 江崎健一郎 | S46 | 家島範子 | S56 | 石尾雅昭 |
| S39 | 山岡正子 | S47 | 平岡孝雄 | S56 | 中村文雄 |
| S39 | 大賀美智子 | S47 | 園部幸雄 | S63 | 川崎 聡 |
| S39 | 北川温子 | S47 | 渋谷義郎 | H02 | 大野美佳 |
| S41 | 白木 茂 | S47 | 安部 喬 | H05 | 阿部 剛 |
| S41 | 白木江都子 | S47 | 山上吉明 | H07 | 田坂悦子 |
| S41 | 長谷川千春 | S50 | 辻本 弘 | H10 | 亀井 新 |
| S42 | 梶川純史郎 | S51 | 米田 薫 | H12 | 松浦千佳子 |
| S44 | 池谷信夫 | S51 | 米田由岐子 | H13 | 大宇根麻美 |
| S44 | 本藤正則 | S55 | 久米川貞雄 | H14 | 山口 茜 |
| S44 | 仲西直樹 | S55 | 朴 梨香 | H14 | 松本千穂子 |

■ EWA CHOR「部歌」の初演について

EWA CHOR「部歌」の初演について、昭和38年卒の小泉巍様より貴重な記録と資料をご提供いただきましたので以下にご紹介をさせていただきます。

「部歌」の制作時のいきさつは、第50回定期演奏会記念誌に掲載の作曲者・阿部圭介様(S40年卒)のご寄稿のとおりですが、「部歌」の編曲が終わり、最初のガリを切られたのは、小泉様でした。当時、乾式コピーは一般的でなく、多部数の複写は謄写印刷で、第5回定期演奏会の直前に仕上がった「部歌」の原稿を練習日に小泉様が受け取られ、その日の夜、少しでも早くとの気持ちから、徹夜で取り組まれました。「部歌」の最初のガリということで、きれいな楽譜にしたいと、精魂つめてやり遂げたことを、今も鮮明に記憶されているとのこと。この貴重な「部歌」初版の画像をご提供いただきましたので、下記に掲載いたします。



見開きの2ページではおさまらない3ページものため、表紙を付けられました。また、最終ページの最後にうまく余白が出来たので、何かの時に役立つかもしれないと、日付と Copied by Koizumi を入れておかれたとのこと。こうして完成した EWA CHOR「部歌」は、1963年11月26日大阪サンケイ会館に於いて開催された第5回定期演奏会で初演されました。

ところで、「部歌」が初演されて57年あまりの時が流れました。毎年の定期演奏会で当たり前のように歌い継がれてきた「部歌」ですが、今年度は、長い EWA CHOR の歴史の中でもこれまで経験したことのない事態となりました。新型コロナウイルス感染症の影響により、大学の前期授業は基本的にオンラインとなり、通常の部活動や新入生勧誘活動が十分に行えませんでした。大学の在学

期間は短く、半年間、十分な部活動ができなかったことは、EWA CHOR の存続に関わる重要な問題と受け止めています。大阪の感染状況は、まだまだ予断の許さない状況が続いていますが、万全の感染対策を行い、様々な制約がありますが、何とか来年1月17日の第62回定期演奏会で「部歌」が無事に歌われることを心から願っています。また、コロナ禍の大変な時期に活動をしている現役部員に対して、OB・OG 会としてもできる限りのサポートを行いたいと思っています。(久米)



第5回定期演奏会(1963.11.26 大阪サンケイ会館)

<訂正のお願い>

第50回定期演奏会記念誌「EWA CHOR 50年のあゆみ」に、「部歌の歌い始め」が第6回定期演奏会との記載がありますが、第5回定期演奏会に訂正します。記念誌をお持ちの方は、以下の訂正をお願いいたします。

- ・3頁4行目 (誤)第5回 → (正)第4回
- ・3頁5行目 (誤)第6回 → (正)第5回
- ・82頁 年譜表中のエヴァ・コールの出来事欄「部歌の歌い始め」を第5回定期演奏会の行に移動

■ 第3期会費納入状況のご報告

OB・OG 会では、5年間を会計期間と定めており、2019年1月26日より第3期がスタートしました。一般会員の皆様には、会則第八条により1期間で3,000円の会費納入をお願いしています。

2019年12月1日～2020年11月30日に、第3期会費を納入していただいた方は、以下の通りです。なお、2019年11月30日以前に納入していただいた方は、会報 No.15 に掲載しています。(敬称略)

<ご寄付お礼>

下記の方よりご寄付をいただきました。お礼申し上げます。

- ・S34 卒 様 ご遺族様 3,000 円
- ・H08 卒・H09 卒 様 様 10,000 円

※転居の際は、下記幹事までご連絡ください。

EWA CHOR OB・OG 会報 (第16号)
令和2年12月発行 (発行部数 550部)
<幹事連絡先>
久米 秀樹 (H2年卒)

e-mail